



イルカの空中散歩



第183号

担当:村上

今回は村上が、日本遺産に初認定されたうちのひとつである、熊本県人吉市・球磨郡をご紹介します。

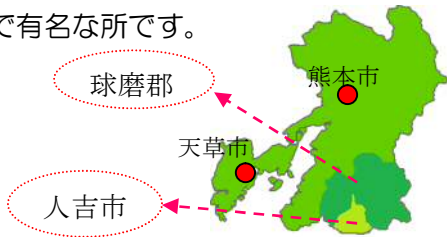
～人吉球磨は、ひなまつり～

みなさま、本日もご搭乗ありがとうございます。この前新年を迎えたところなのに、あっという間に3月・・・早いですね～。

年度末ということで、お忙しい方も多いのではないのでしょうか。

さて今回は私、村上が熊本県人吉・球磨に行ってきました(^o^)

ここ熊本県人吉市・球磨郡は、熊本県の南部に位置しており、温泉や川下りで有名な所です。



歴史を感じさせる多くの文化財が点在するここ人吉球磨。その文化財を含め、2月1日より行われている

“人吉球磨のひなまつり”を皆様にお届けします♪

人吉に到着してまず向かったのは、国宝にも指定されている“青井阿蘇神社”です。平成20年に熊本県で初めて国宝に指定されました。



→
ろうもん
楼門

天井には龍の絵が描かれています。



←
ちょうすい
手水舎

社殿群（本殿・廊・幣殿・拝殿・楼門）を一括で国宝に指定されることは稀なことだそうです。

素晴らしいですね！

記念に交通安全の

お守りを買いま

した☆このお守

りには、人吉の

工芸品である

きじ馬が刺繍

してあるんです！

この刺繍に惹かれました(*^_^*)

そして、青井阿蘇神社から車で少し移動し、いざ“ひなまつり”へ！

今回ご紹介するところは、ひなまつりの会場の中でも城下町の風情が色濃く残っている鍛冶屋町です。



会場の至る所に
可愛い提灯が飾られています♪

歩いていると、『みそ・しょうゆ蔵』と書かれた大きな看板がありました。よく見ると、見学もできるそうなの♪ということでお邪魔しました！



ここ、釜田醸造所さんでは、現代では珍しく、味噌とお醤油を“もろみ”の段階から自社で製造されています。

『もろみから自社で作っているところは少ないですよ～！』と、工場内を案内して下さったのは、工場長の久保田さん。製品が出来るまでの工程を丁寧に教えて下さいました。

工場内はお醤油の良い香りでいっぱいでした(^o^)また、城下町特有の建物で、手前から諸味（もろみ）室・製麹（せいきく）室・油圧室・瓶詰め室…と、とても奥行きがあります。



←
瓶詰めの様子

そして、もちろん！お雛さまも見せていただきました☆

釜田醸造所の社長のお姉さまと、娘さんのお雛飾りだそうです。すごく立派なお雛飾りでした！この他にも、たくさん飾られていました。



ひなまつりの季節になると、地元の小学生が、手作りの雛飾りをこの地域に持ってきてくれるそうです。『子供たちが作ってくれたひな人形が町にならぶと、また一層華やかになりますよ(^_^)』と嬉しそうにお話していただきました。そして、もっと昔のお雛様がお隣のお店で見ることが出来ると聞き、次にお邪魔したのが、創業明治10年のお茶屋、立山商店さんです。

当主は5代目の立山茂さん。日本茶インストラクターでいらっっしゃいます。ここ立山商店さんにも、貴重なお雛様が飾られていました。なんと、古いものは江戸時代のものだとか！今でも綺麗に保存してあり感激しました！やはり、古いので出し入れする時に壊れてしまったりするそうで、『出し入れの際は、家内が僕には触らせてくれないんですよ〜笑』とおっしゃっていました。

人吉には温泉やうなぎ、餃子などがあり、魅力がたくさんです！でもこのような昔ながらの風情を体感するのもいいなあと感じました！皆さまも人吉・球磨へ☆さあ！今年是自己でお雛様出そうと・・・(笑)



↑江戸時代のお雛飾り



↑明治時代の箱雛



↑娘さんの雛飾りの前で

人吉球磨は、ひなまつり

✽平成28年2月1日(月)~3月21日(月・祝)

✽会場:熊本県人吉球磨一带

✽お問い合わせ/人吉市観光案内所(人吉駅構内) TEL:0966-22-2411

◆アクセス情報◆

車

益城熊本空港 I.C-人吉 I.C 85km(1時間)

特急 九州横断特急

熊本駅-人吉駅(1時間30分)

✽釜田醸造所✽

〒868-0001

熊本県人吉市鍛冶屋町 45

TEL: 0966-22-3164

✽立山商店✽

〒868-0001

熊本県人吉市鍛冶屋町 43

TEL: 0966-22-2566

国うえだのつばやき

皆さま、こんにちは！いつも天草エアラインをご利用いただき、誠にありがとうございます。

今回はわたくし、総務部の上田がつばやきます。

いよいよ日本初となるATR42-600、Newみぞか号が就航しました！皆さま、乗り心地は如何でしょうか？

短い時間ですが、Newみぞか号のフライトを楽しんでいただけたらうれしいです。

ところで、このNewみぞか号、どこで生まれたのかご存知ですか？もちろん天草の海で生まれたわけではありません。

この飛行機は、フランスはトゥールーズにあるATR社の製造工場生まれ(作られ)ました。

さて、そこでクイズです。フランスで作られたNewみぞかは、どうやって日本までやって来たでしょう？

- ①大きな船で運ばれてきた(海路)
- ②大きなトラックや列車で運ばれてきた(陸路)
- ③自分で飛んできた(空路)
- ④イルカなので泳いできた(その他)

正解は・・・③でしたー！そう、こんな小さいのにフランスから日本まで自力で飛んできたんですね～。

でも、もちろん一足飛びに飛んできたわけではありません。

スピードがJET機とは違うので時間も掛かるし、途中で給油しないとお腹も減ってしまいますから。

というわけで、Newみぞかの長～い旅路を簡単にご紹介します。

- 2015.8.16 フランス～キプロス
 8.17 キプロス～バーレーン～オマーン
 8.18 オマーン～モルディブ
 8.19 モルディブ～スリランカ～タイ
 8.20 タイ～台湾
 8.21 台湾～日本(熊本)

6日間もかけて、はるばるフランスからやって来ました。

ついでに私もNewみぞかに乗かって一緒にフランスから飛んできましたが、

Newみぞかの窓から、中東の広大な砂漠やインド洋の美しいサンゴ礁を見るのは、なかなか不思議な気分でした。

そんなわけで、長い旅路を経てようやく皆さまにお会いすることができたNewみぞか号を、

これからもどうぞご最真にお願い致します！！

